

関 係 者 の 供 述 等

(目 次)

- 1 防衛事務次官 豊田 硬の答申書・・・・・・・・・・・・・11
- 2 人事教育局長 武田 博史の答申書・・・・・・・・・・・・・12
- 3 麴町警察署へ調査協力を依頼した際の回答
(平成30年4月20日付 文書で受領)・・・・・・・・・・・・・16

1 防衛事務次官 豊田 硬の答申書

(1) 4月16日(月) 2049、小西議員から公用携帯電話に連絡あり。

先方「自衛官を名乗る者から暴言を吐かれてトラブルに巻き込まれている。何人かの警察官も来ている。防衛省・自衛隊のサービスの責任者と連絡を取りたいのだが、次官の電話番号が手元にあったので電話した次第。悪いが、至急、しかるべき者から、この携帯電話に連絡が欲しいのでよろしく。」

詳細について記憶があいまいだが、小西議員から暴言の内容として「お前は敵だ」とか「気持ち悪い」とか言われたとの例示があったように思う。

(2) 同日2052、武田人事教育局長へ、至急対応するように電話にて指示。

(3) 同日2056、高橋官房長へ、上記の概要を伝達し、武田局長と連携をとって対応するように電話にて指示。

(4) 同日2102、武田局長から連絡あり。

局長「とりあえず、本人が謝罪したので、小西先生は「本人の家族のことでもあるので」と許すような感触であった。名前等については教えてもらえず、本物の自衛官かどうかはわからず。明朝にはそのあたりもわかるかもしれない。」

(5) 4月17日(火)、0944 小西議員から公用携帯電話に連絡あったが気づかず。

同日1002、当方から小西議員へかけ直し。

先方「警察から本物の自衛官でなんと統幕勤務であると聞いた。こうした中枢で勤務する自衛官の暴言だと放置しておくことはできない。先ほど武田局長にも電話をしたが、本日の外交防衛委員会で取り上げることとするので、事前に通知しておきます。ただし、本人の名前は晒しません」

当方「こちらでも事実確認をいたしますが、本当に申し訳ありません。」

(6) 同日1010から各幕長との懇談の際に、本松統幕副長に上記の話をかいつまんで説明。

2 人事教育局長 武田 博史の答申書

- (1) 4月16日は勤務を終え、自宅に帰宅途上、最寄り駅から徒歩で移動中、次官から電話が入った。次官は、参議院の小西先生から今電話があり、現職自衛官から暴言を言われ、トラブルになっているので、至急サービスの担当から小西先生に電話をするようにとの話であった。私は、まだ役所にいると思ったサービス管理官の[]に対応させようと考え、直ちに電話をしたところ、既に職場を出て、帰宅途中であった。外にいると落ち着いて対応できないおそれもあると考え、[]に対応させることを止め、この事案は他の人に指示するよりも、とにかく早急に対応したほうがよいと思い、自ら小西先生に電話をかけることとした。
- (2) 電話をかけてもつながらなかったが、すぐに先生から折り返しがあった（自分の携帯は同じ相手との通話履歴は当日中ならば最新のものしか残らないため確認できず、小西先生によれば、20時56分発信で、6分間通話したとのこと）。先生は、現職の自衛官を名乗る男から暴言を言われているとの話であったので、私としては、このような対応は初めてであり、しかも国会議員と現職自衛官とのトラブルなので、誤った対応は許されないと緊張感を持ったことはよく覚えている。
- (3) 電話では、先生からは、「今、事務所にいますか」との質問があり、「いや外からです」と答え、「現職自衛官から暴言を言われていて、謝罪も拒否しているが、どうしたらいいか、警察官もいる。」との話があったように記憶している。私は、先生に対して、「担当を現場に向かわせたいがどうか」と伝えたところ、先生からは「どのくらい時間がかかるか」、「すぐに来れるか」、「時間かかるでしょ」のような到着までの時間に関する質問があったと記憶しており、私からは、「20分から30分かかると思います」と答えたところ、先生から「ちょっと待って」と言われ、電話の向こうで、聞き取れないものの話声が聞こえていたが、先生から、私に「男が発言を撤回して謝るそうだ」と言われた。

- (4) これが先生との電話の最後であったと記憶しているが、先生が電話を切るときに、相手の男に向かってだと思われるが、「人事の責任者だ、インターネットを調べればわかる」との声が聞こえたように記憶している。私は、電話中は、とにかくどのように対応したらいいのかについて考えることに集中していたので、今思いだしても、先生から、暴言の具体的な内容や具体的な状況についての話があったのかは覚えていない。(なお、後刻、この先生との電話を受けてサービス管理官付の[]に指示しているが、[]は、「局長からは、現職自衛官と名乗る男から暴言や罵声を浴びせられたが、本人は撤回して謝罪した」としている。)先生との電話を切ったあと、次官から「先生に電話をしたら報告してほしい」と指示されていたので、次官に電話をして、「先生は現職自衛官から暴言を言われたが、最後に謝罪を受けたようです。」というような話をしたように記憶している。
- (5) そのあと官房長から電話があり、「次官から電話があった」と話されたので、小西先生との電話のことを話した。そのときに、官房長から、「その男は本当に現職の自衛官なのか、自衛官を名乗っているだけではないか、この話を知った以上、名前がわかれば調べる必要があるのではないか、あそこは麹町警察署の管轄だから、その警察官が現場にいたのだろうから、聞いてみたらどうか」という話があった。私も確かにそうだと思うたし、官房長は現場が麹町警察署の管轄だとよく知っているなど思ったことは記憶している。官房長には、「大臣秘書官には私から報告します。」とって電話を切った。
- (6) 私は、大臣秘書官に電話する前に、その男が現職の自衛官なのかすぐにわかるならば、確認する必要があると思い、サービス管理官の部屋に電話して、[]がいたので、事案のことを話した上で、「麹町警察署に電話して、現場にいた警察官から、その男の名前を聞いて欲しい」旨の指示をした([]によれば、21時15分)。その後、私は、現職自衛官がトラブルの相手であったことや、大臣に報告しなければならないこと、次の日の参議院外交防衛委員会で小西先生が質問にたつ予定であったことを考え、どのようなトラブルだったのか、先生からちゃんと話を聞いたほうがよいと判断し、自宅に帰ってから、先生に電話をかけた(先生によれば21時34分着信)。

- (7) 先生からは、具体的な話があり、私は、大臣等に報告することを考え、その話を聞きながら、殴り書きではあるが、メモをとった。そのメモと記憶によれば、先生からは、「参議院会館を出て国会図書館が向かいにある交差点でタクシーをとめようとしたところ、衆議院議員会館からジョギングしてきた男が信号でとまり、私に、「おまえは気持ち悪い、おまえは国民の敵だ。」とののしられた。男は現職の自衛官と名乗っていて、何度も何度も同じことを言った。警察官もいた。私は、男に、「防衛省に通報するぞ、でも、撤回して謝罪すれば、通報しない」と伝えたら、拒否された。(ここまではメモに書いてある。)それで、携帯を見たら、豊田次官の電話番号がすぐ出てきたので、次官に電話して、服務の人から電話を欲しいと伝えた。そのあと、局長と電話をしていたら、男は、撤回して謝罪するという事になった。」という話であった。私は、先生に、「明日の国会でこの話を質問しますか、事実関係を調べないといけないので、質問されても何も答えられません」と伝えたところ、先生からは、「明日は質問しない。」との答えを頂いた。
- (8) 次に大臣秘書官に電話して、これまでのことを話し、また、「先生は、明日は、この件での質問はしない」と言っていることも話した。秘書官は、官房長と同じく、本当に現職の自衛官なのかとの話があった。[]から、麴町警察署への問い合わせの結果の報告があり、警察からは「最終的には、小西先生とその男とは握手をして和解した。氏名は把握しているが、明日、小西先生へ氏名を連絡するので、知りたければ、小西先生から聞いてほしいとの話であった」([]によれば、21時47分)との報告を受けた。
- (9) その後、私は、夕食等を済ませ、この件についてあらためて考えたところ、その男の名前を早く聞き、現職の自衛官かどうか確認する必要があると思い、22時31分に、先生にもう一度電話して、「警察は、今日は名前は答えられないと言っている。先生がもし名前を聞かれているならば、教えてほしい。こうした事案があったと承知した以上、調べなければならない。」旨を話したところ、先生は、「名前は聞いてわかっているが、男に対して、「発言を撤回して謝罪したら名前は防衛省に通報しないと言ったので、教えられない。警察も、名前は聞いているので、現場にいた麴町警察署の[]の連絡先を教えるので、[]さんから聞いてほしい。」

との話があり、[]の連絡先を教えてもらった。これを受けて、私は、[]には、今度は、[]より上の[]から、連絡先を小西先生から教えてもらったことも含めて、その男の名前を聞いてもらおうと思い、[]に電話をして、これまでのことを話した上で、「[]に電話して名前を聞いてほしい」と指示した。

- (10) その後、[]から電話があり、「[]は、氏名は、小西先生が防衛省には通報しないと言っていたので、教えられないが、明日朝9時に小西先生に名前を伝えることになっており、その際、小西先生には、防衛省から問い合わせがあると思うので対応してほしい旨も一緒に話しておくと言われた」と伝えられた。
- (11) その後、私は、明日の委員会では先生はこの件での質問はしないと言われていたが、念のため、想定問答を作成しておこうと思っていたので、手書きで作成した上で、[]に電話をして、作成したものを読み上げて、想定問答を作成した。以後は明日の対応になると判断した。
- (12) 4月17日は、午前10時から、参議院外交防衛委員会が開催される予定で、小西参議院議員が質疑を行うことになっていました。私は、小西議員ではない他の議員の質疑の政府参考人になっていたもので、国会内の参議院別館3階の委員会室の前で待機していると、小西議員を見かけたので、昨夜の件に関して話そうと思い、声をかけました。
- (13) 小西議員は、朝、警察から連絡があったとし、「昨日の自衛官は、今イラク日報などで問題となっている統合幕僚監部の通信関係の部署に所属する自衛官だった。」と話され、続けて「私は、昨夜は、彼は、第一線の現場の部隊に所属する自衛官だと思っていたが、驚くべきことに、中央で勤務するまさに大臣のおひざ元の統幕幕僚監部の自衛官が暴言を發したということで、大問題である。」と大変怒った様子で話されました。
- (14) そして、「本件について、昨夜は質問しないと申し上げたが、彼が統幕の自衛官とわかった以上、極めて問題であり、このまま放置することはできないので、質疑で取り上げざるを得ない。」「官房長と、場合によっては大臣の答弁を求めたい。」と話されました。これを受け、私は、官房長と大臣秘書官に伝えました。

3 麴町警察署へ調査協力を依頼した際の回答
(平成30年4月20日付 文書で受領)

「対応に当たった警察官は、本件とり扱い時において、両当事者間でなされていた文言のやりとりは聞いていない。」